

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

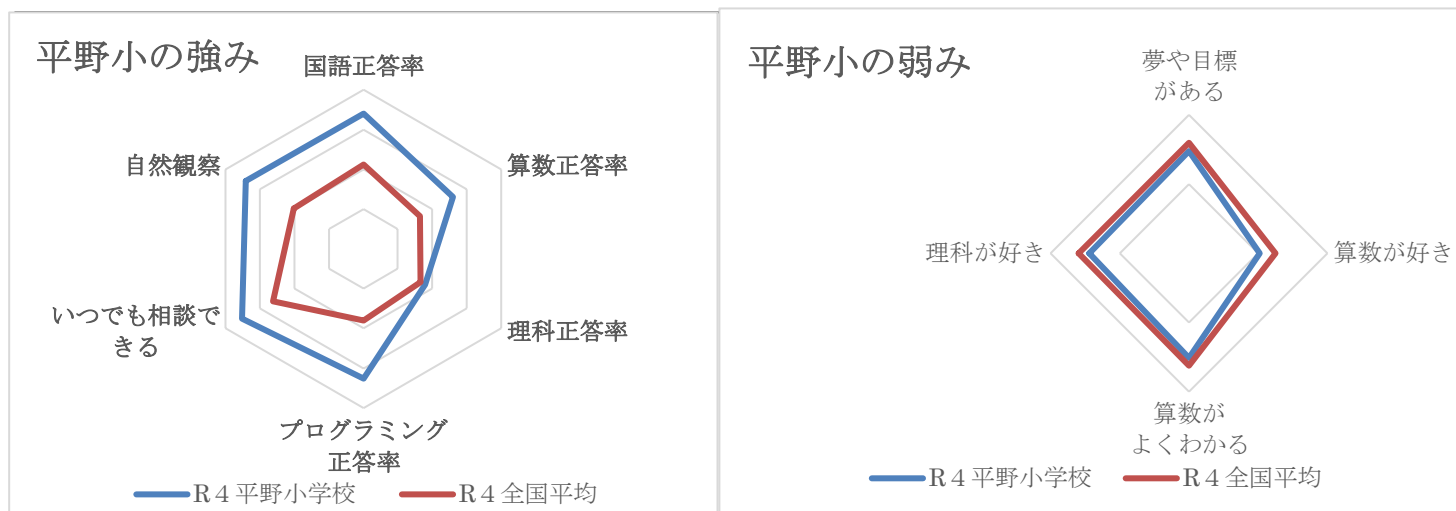
【結果について】

《結果の概要と本校の強み・弱み》

- 全国の平均正答率と比較してみると、国語、算数ともに全国平均を大きく上回っており、理科についても全国平均並み（若干上回る）となり、概ね結果は良好といえる。
- 昨年度の全国学力学習状況調査の結果から、本校の課題となっていたICT活用が改善され、全国平均を大きく上回った。また、地域人材の活用を活かし、プログラミング教育に力を入れていた結果、算数科の問題にあったプログラミングの正答率も全国平均を大きく上回る結果となった。
- 困ったことがあったら先生にいつでも相談したり、課題でわからない時はすぐ聞いたりする児童の比率が高い。
- 自然の中で遊ぶことや自然観察をする児童の比率が高い。
- 将来の夢や目標を持っている児童の比率が若干低い。
- 算数科や理科の学習を好きだと回答している児童の比率が若干低い。

◇本校の強み・弱みレーダーチャート◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率・回答率、と本校平均正答率・のポイント差に基づいて作成しました。

【指導の充実に向けて】

- 学校教育目標「かがやけ」、めざす子ども像「人と関わり学べ！遊べ！地域にときめけ！」を念頭に置いた教育活動等を継続し、学習意欲を高めることができるよう毎時間「めあて」を提示する。確かな力を身につけるための「ふりかえり」の時間を、授業の中で確保する。
- 子供たちが、自ら進んで課題を解決し自分の考えを発表できる授業づくりをめざし、どの教科・学習においても子どもたちの主体性が高まる学習となるよう取り組んでいく。
- 学校で統一した指導を行うために、基本に戻り、学校のきまりを「見える化」して全学級で足並みをそろえて指導をする。そのことを通じて、子供たちにとって安心して学ぶことができる学校づくりをめざす。
- 9月より、1～3年生にもタブレットが配備されたため、全学年において昨年度から取り組んでいるICTを活用した学習を進んで行っていく。また、児童がタブレットを適切に使用できるよう指導していく。